



九州大学 東アジア環境研究機構の設置について

概要

九州大学は、百周年記念事業の一環として「東アジア環境問題プロジェクト」に取り組んできました。このプロジェクトが平成 21 年度文部科学省特別教育研究経費として、予算措置されたことに伴い、これらの取り組みの基盤整備と充実・強化を図るため、総長を機構長とする、部局俯瞰型の全学組織として「東アジア環境研究機構」を設置することとなりました。

背景

近年の東アジア圏における経済成長は著しく、これに伴う様々な種類の環境問題が噴出しています。これらの環境問題はその地域に限定されるものではなく、我が国を含む近隣諸国への「越境汚染」という形で拡がる可能性があり、深刻な影響が出る前に、速やかに解決すべき課題です。

この課題に対応するため、アジアへ開かれた大学を標榜している九州大学では、学内の様々な環境分野の専門家を結集し、2007 年 9 月、「東アジア環境問題プロジェクト (The East Asian Environmental Problems Project)」を結成しました。このプロジェクトでは、国内の幅広い産官学の組織及び「学のカウンターパート」となる中国政府直轄大学 (同済大学、上海交通大学、清華大学) の協力のもと、本学の都市環境、大気汚染、河川・海洋汚染、水問題・砂漠化など幅広い研究分野を活かし、国際・学際的な研究活動や国際交流を行ってきました。

内容

本機構は、九州大学の知と技術を統合し、東アジア圏の深刻化する環境問題を実践的に解決する先導機関を目指し、「広く環境人材の育成」と「持続可能な未来環境の創成」に貢献することを目標としています。

これまでの東アジア環境問題プロジェクトの活動を基盤として、各グループの個別の活動を集約的にコンソーシアム化し、複雑かつ多岐に渡る環境問題への包括的なアプローチを含め、分野横断的な専門知交換型の機構を目指します。つまり、これまでの 8 グループ (都市環境、大気汚染、水問題・砂漠化、河川・海洋汚染、環境化学、社会システム、住空間システム、フードシステム) を「社会基盤コンソーシアム」、「環境共生コンソーシアム」、「環境保全コンソーシアム」に集約するとともに、各コンソーシアム、グループ間の有機的かつ実質的な連携を推進するための横断的な組織として、「環境計画・政策グループ」を設けました。

また、各コンソーシアムの研究課題は、東アジア圏で生ずる環境問題の実践的解決に関するものとし、スタートアップの 3 カ年については、「廃棄物・循環型資源」、「水質汚濁問題」、「大気汚染問題」としています。

なお、海外協力機関については、既に大学間協定に基づく国際共同研究等の交流実績を有する同済大学、上海交通大学、清華大学、中国科学院等との更なる連携強化を図ることとしています。

効果

東アジア圏の環境問題は、その経済発展と並行して、爆発的速度で進んでいるため、一刻も早い解決が急務となっています。そのため、環境先進国である我が国の技術や知見を率先して導入することで、早急かつ大きな効果が得られるものと期待されます。

日本はその地理的特性から、東アジア圏で生じる環境被害を最も受けやすく、中でも九州地区はアジアに近接しているため、住民の環境問題に対する意識も高く、これに対応する環境研究も非常に活発です。九州大学はその代表的研究機関と言え、環境学に従事する優秀な研究者を多分野に渡り、多数擁しています。したがって、本学は東アジア圏の環境問題解決に特化した研究拠点となり得る素養

を有しており、中でも東アジア環境問題プロジェクトは、環境問題即応型の組織として活動を続けてきました。これまでに、国内外の主要研究機関や民間企業数社からの連携も得られており、相手国となる中国の政府管轄大学との研究協力協定も既に締結しています。

東アジア環境研究機構の設立は、本プロジェクトを組織として集約化するものであり、切迫する重要な環境問題に即応する先導機関であり、また地球規模の持続的な未来環境の構築の一助となるものです。

■今後の展開

スタートアップ期間である当初の3年間は、各コンソーシアムにつき1研究テーマとし、中国から強い共同研究の要望がある「廃棄物・資源循環」、「水質汚濁」、「大気汚染問題」について、北京、上海周辺を中心とした即時的な対応が要求される重要課題に対処することとしています。

開学百周年を迎える2011年から5年目においては、産官学の国内関連機関との連携を重視して、実証研究に移行する組織作りの強化を目標とします。また、これまでの活動状況を評価、改善することにより、環境問題解決へ向けた日本チームの窓口となるような組織強化を目指します。

後半の5年目から10年目については、インドやタイなど東南アジアの新興国を含めた東アジア全域に渡る活動を目指しています。国際プロジェクトへの発展を見据えて、政府各省庁の協力も得ながら、東アジア環境問題への提言と解決に繋げ、全地球規模の環境改善の一助となりうる活動を目指します。

本機構のもう一つの柱である人材育成については、スタートアップ期間においては、主として、留学生の受け入れと派遣、研究員の交流による人材育成プログラムを展開します。3年目以降は、これらの基盤的取組を基に、組織的・体系的な教育プログラムの開発と展開により、将来を担う環境リーダーの育成を目指すこととしております。

【お問い合わせ】





学術研究推進課 小野耕志

電話：092-642-2126

FAX：092-642-7090

Mail：kissomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

東アジア環境問題プロジェクトの経緯

2007年	梶山千里前総長発声のもと、九州大学百周年記念事業として、東アジアの環境問題解決に向け、本学環境学の専門家を学部横断的に結集	
2007年 9月21日	九州大学百周年記念事業 『東アジア環境問題プロジェクト』結成・プレスリリース	
2007年 10月24日	九州大学工学研究院附属循環型社会システム工学センターと 同済大学環境科学と工程学院が学术交流協定締結	
2007年 11月14日	第1回キックオフ・ミーティング 開催(九州大学)	
2008年 2月1日	プロジェクト・ホームページ開設 http://www.q-eaep.kyushu-u.ac.jp/	
2008年 8月26-27日	第1回東アジア環境問題国際シンポジウム 開催(中国・上海) Sino-Japan International Symposium on the East Asian Environmental Problems EAEP 2008	
2008年 12月21日	平成21年度の文部科学省特別教育研究経費に『東アジア環境問題プロジェクト 研究の推進』(3カ年)事業が予算計上された	
2009年 4月1日	東アジア環境研究機構を設置	

日中韓で環境問題取り組み
九大が産学官連携プロジェクトを推進

東アジア環境問題プロジェクト研究の推進

—実践的解決のための学際融合的推進体制の構築—

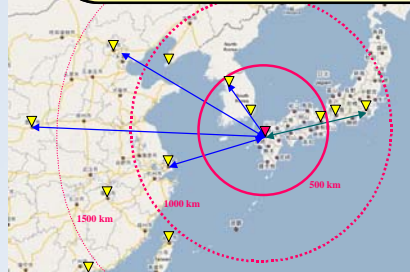
東アジア圏の深刻な環境問題

- ① 大気・海洋から社会経済圏まで様々な分野・レベルで発生
- ② 同時複合的かつ連鎖的に変化
- ③ 地域局所的～地球的規模（国際的）な異なるスケールで被害

環境問題の実践的解決に向けて

実践的解決のためには、高度な専門知・学際的ネットワークによる柔軟な研究体制の構築が必要。

東アジア圏環境問題の先端研究機関としての九州大学の大きな可能性



① 東アジア圏に均等に近い地理的特性

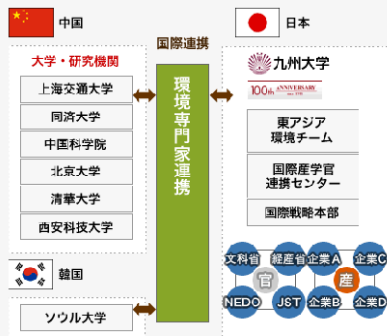
- ・ 東アジア圏の環境に最も影響を受けやすい地域であり、現地の環境問題に対する高い意識・関心！
- ・ 個々の研究者がこれまでに培った東アジア圏の主要大学・研究機関との環境問題等に関する共同研究の大きな実績！（別紙参照）

② 九州大学が有する豊富かつ高度な専門知

開学百周年を契機とした事業（2011年）として、本プロジェクトの全学的な協力体制を構築済み。全学の専門知を十分に活用できる体制に！

③ 環境問題研究に向けて構築した強固な国際産官学連携体制

- ・ アジア学長会議の主催を通して国際ネットワークを形成済み！
- ・ 中国・韓国等の主要大学および研究機関と国際共同研究体制を構築済み！



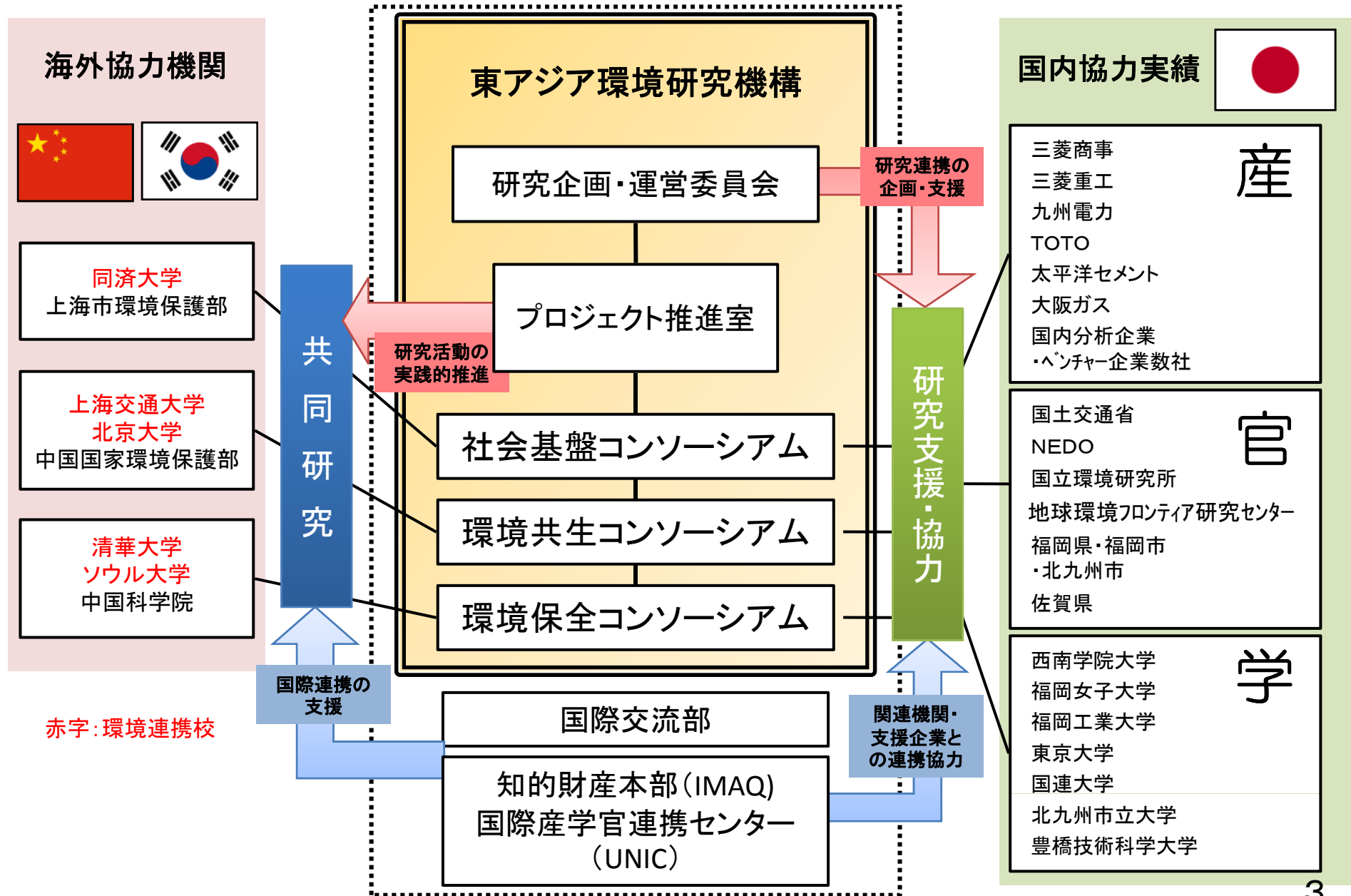
CSR 国際貢献・社会貢献



国内外研究機関との連携



九州大学



年度別活動目標

